

■ ShutDownEx ユーザーズマニュアル

計画停電や急な停電が発生したときに対応でき、またサーバを指定した時刻にシャットダウンしたり、指定した時刻に休止状態にし、さらに指定した時刻に復帰することで節電します。

■ 概要

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災ではたくさんのかたが被災され、その惨状には胸が痛みます。また福島第一原発の事故により、東京電力管内はもとより、日本全体で電力供給が不安定な状況になってきています。

計画停電や急な停電が発生したときに対応できるよう ShutDownEx を開発しました。

またサーバを指定した時刻にシャットダウンし、指定した時刻に休止状態にしたり、さらに指定した時刻に復帰することで節電します。

● すみやかにシャットダウン

Windows サーバ(Windows Server 2003/Windows Server 2008)にかぎらず、クライアント用の Windows XP/Vista でも、シャットダウンするとき、通常のシャットダウンでは更新があった場合に「更新が終了してからシャットダウン」が選ばれてしまいます。そのため、急な停電や計画停電による停電が発生したとき、UPS が設置してあって停電に対応できていたとしても、あわててその設定のままシャットダウンしてしまうと、更新が終わるまでシャットダウンが実行されない状態になってしまいます。

またサーバでは、シャットダウンする理由を入力しないとシャットダウンが実行できないようになっています。そのほんのひと手間にもあわてていると操作にてまどる可能性があります。

ShutDownEx からシャットダウンを実行すると、強制的にシャットダウンするため、更新があってもシャットダウンします。サーバではシャットダウンの理由を入力する必要もなくなり、すみやかにシャットダウンすることができます。

● 指定した時間にシャットダウン、休止状態

また、24 時間稼動が前提のインターネットサーバと異なり、企業内の Windows サーバの多くは 24 時間稼動している必要のないものが数多くあります。節電のためにそれらの Windows サーバを指定した時刻でシャットダウンし、定期的にシャットダウンすることができます。

(自動的に起動する場合には、BIOS の設定で「Auto Power ON」の項目があり、起動する日時が設定できることを確認してください。)

ShutDownEx には、休止状態・スタンバイ状態から自動的に復帰する機能もあります。最近のサーバには BIOS の設定項目に「Auto Power ON」の項目がなく、指定した時刻に電源を ON にすることができない機種も数多くあります。その場合には、指定した時刻に休止状態にし、指定した時刻に復帰させることで、その間節電することができます。

■ 開発環境と動作確認 OS

● 開発環境

Windows XP Professional Version 2002+Service Pack2

Microsoft Visual C# 2008

● 動作確認 OS(クライアント用 OS)

Windows XP Service Pack2、Windows Vista、Windows 7

● 動作確認 OS(サーバ用 OS)

Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Small Business Server 2003

(Windows Small Business Server 2003 では、Microsoft Exchange Server 2003 が休止状態をサポートしない関係から、休止状態・スタンバイ状態にすることはできません)

● 必要環境

.NET Framework 2.0 以上

(Windows XP ServicePack2 以降、Windows Vista は.NET Framework 3.0 標準収録、Windows 7 は.NET Framework 3.5.1 標準収録)

Microsoft Windows Installer 3.1

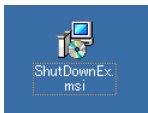
(Windows XP SP3 以降、Windows Server 2003 SP1 以降)

● 必要な権限

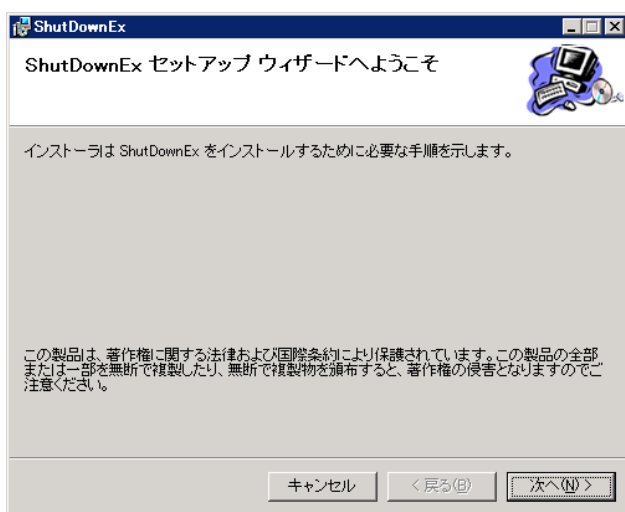
インストールと操作は、管理者権限のあるユーザで行なってください。

■ インストール

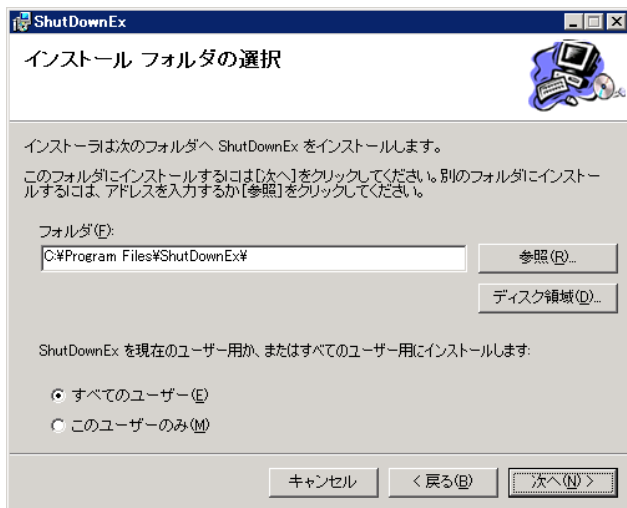
1 ShutDownEx.msi をダブルクリックします。



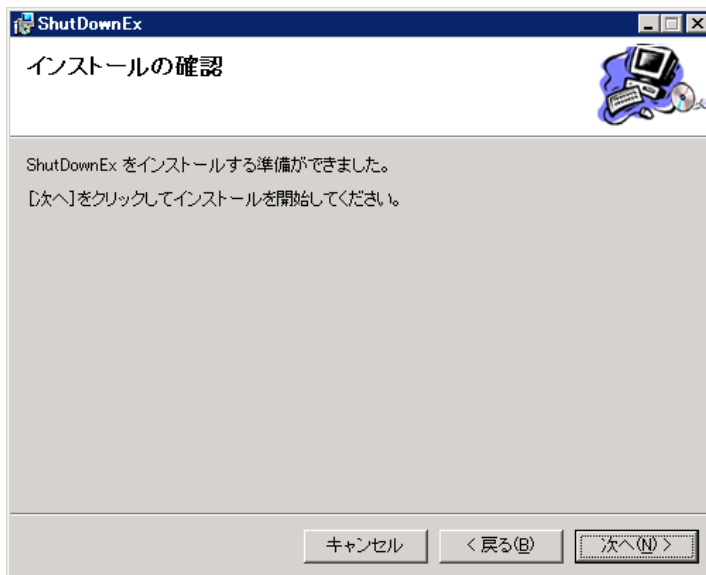
2 「次へ」ボタンをクリックします。



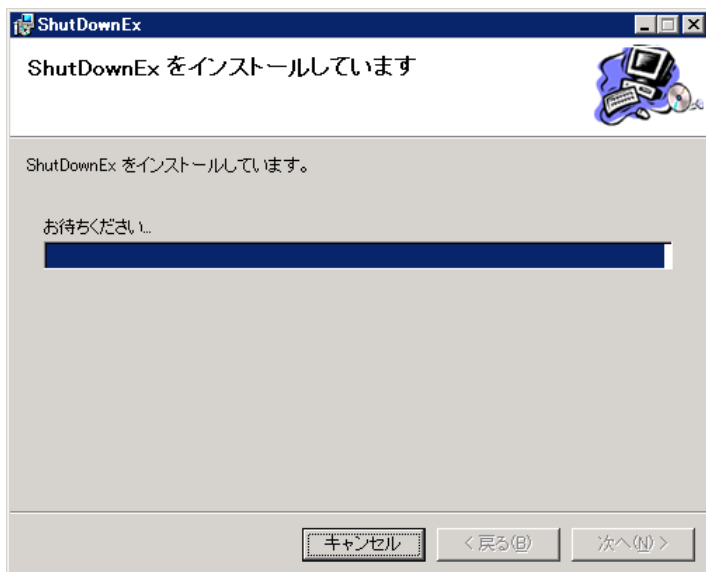
3 インストールするフォルダを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



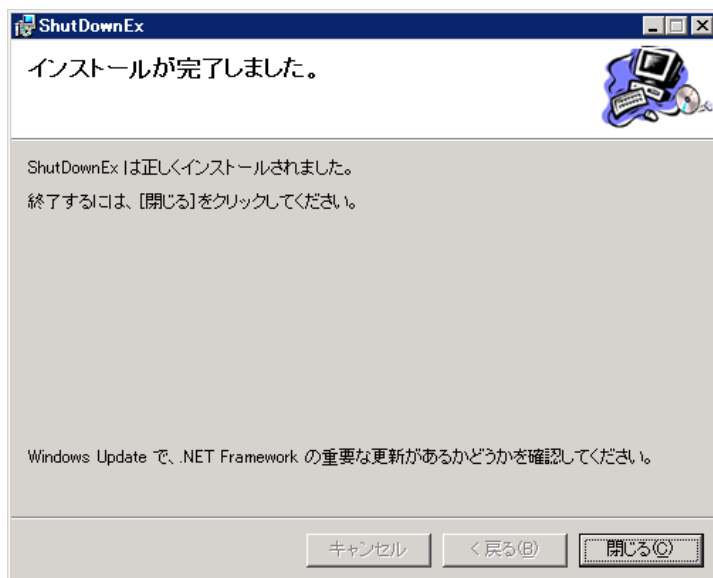
4 「次へ」ボタンをクリックします。



5 インストールが始まります。



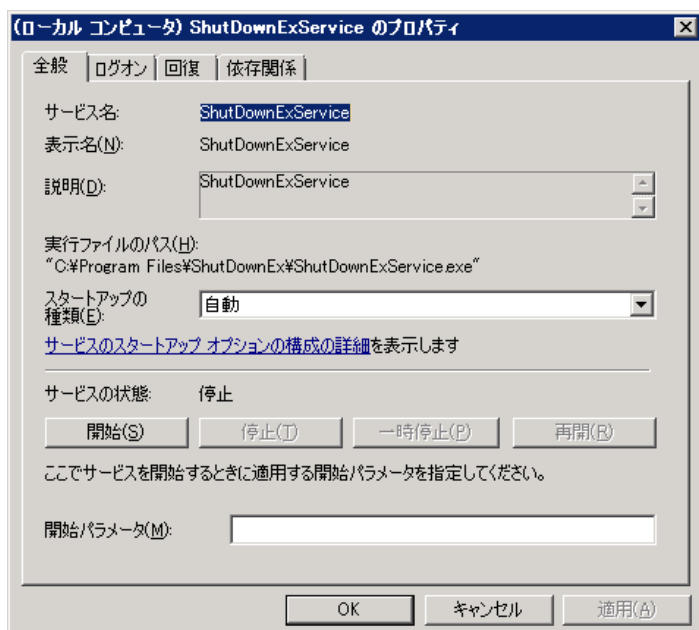
6 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。



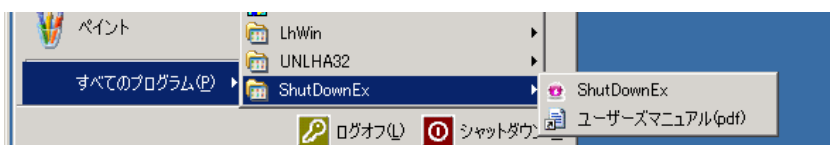
■起動する

ShutDownEx は、Windows サービスとして稼動する「ShutDownExService」と、サービスを設定する「ShutDownEx 設定画面」、サービスをモニターする「ShutDownExManager」から構成されています。

「ShutDownExService」は「コントロールパネル」－「管理ツール」－「サービス」からも管理することができます。「ShutDownExService」は「スタートアップの種類」が自動に設定されているため、Windows 起動時に自動的に起動します。



「ShutDownEx」はスタートメニュー－「ShutDownEx」－「ShutDownEx」から起動してください。



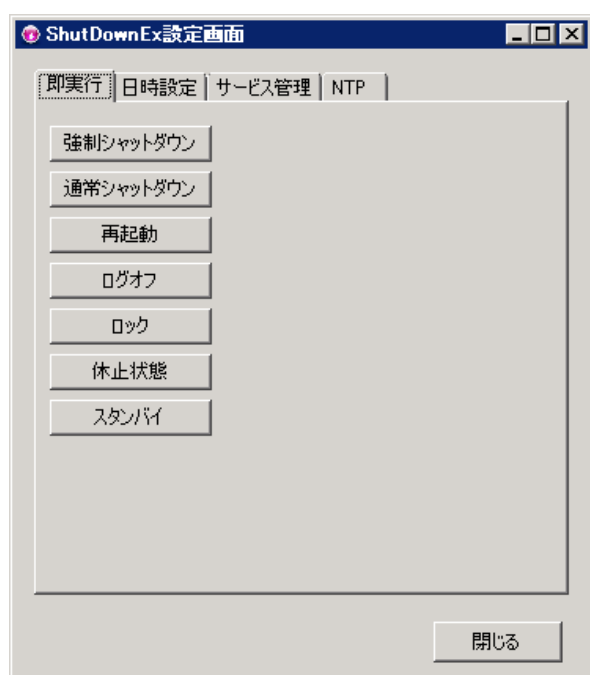
■「即実行」タブ

Windows サービスを利用しないで、すぐに実行します。サーバを急に停止・再起動しなければならないときに、Windows を通常の操作でシャットダウン・再起動しようとすると、

- 1 更新があった場合には「更新をインストールしてシャットダウン」が選ばれているため(デフォルト)、「シャットダウン」あるいは「再起動」を選ばなければならない。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする理由」で、「ハードウェアメンテナンス(計画済)」などオプションで理由を選ばなければ「OK」ボタンがクリックできない。

という問題があります。急な停電などでシャットダウンしなければならないとき、「更新をインストールしてシャットダウン」のままシャットダウンすると、更新が始まってしまい、UPS からの電源供給に間に合わない場合もあります。

このダイアログボックスから実行すると、そういった操作が不要になり、すみやかにシャットダウンすることができます。



●強制シャットダウン

Windows Update の更新があっても更新しないで、アプリケーションはそれぞれ強制的に終了して Windows をシャットダウンします。

Windows Server 2003/Windows Server 2008 でシャットダウンする場合、その理由を入力するようになっていますが、入力することなくシャットダウンします。

●通常シャットダウン

Windows Update の更新があっても更新しません。アプリケーションが起動し、保存していないデータがあった場合には強制的には終了しません。

Windows Server 2003/Windows Server 2008 でシャットダウンする場合、その理由を入力するようになっていますが、入力することなくシャットダウンします。

●再起動

Windows Update の更新があっても更新しないで、アプリケーションはそれぞれ強制的に終了して Windows をシャットダウンしてから起動します(再起動)。

Windows Server 2003/Windows Server 2008 でシャットダウンする場合、その理由を入力するようになっていますが、入力することなくシャットダウンします。

●ログオフ

強制的にログオフします。

●ロック

ログオフしないでロック状態にします。

●休止状態

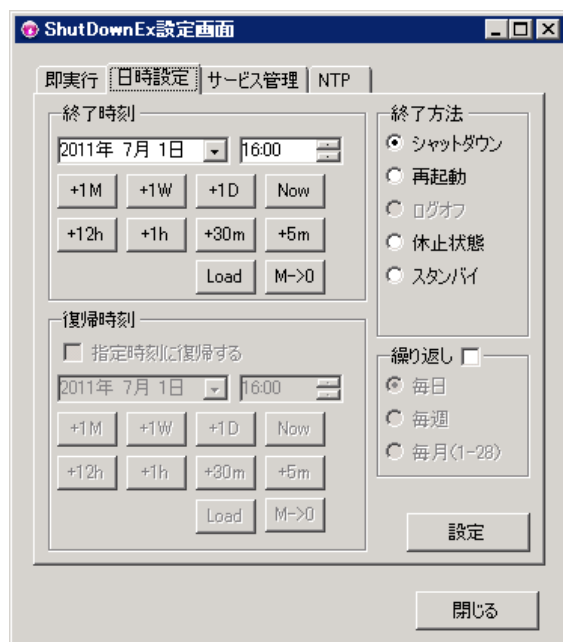
休止状態にします。

●スタンバイ

スタンバイ状態にします

■「日時設定」ダイアログボックス

ShutDownEx は、Windows サービスとして動作している「ShutDownExService」を設定します。サービスとして稼働しているため、ログオフしていても動作します。



●「終了時刻」欄では終了する年月日や時刻を設定します。

「+1M」 年月日を1ヶ月進めます。

「+1W」 年月日を1週間進めます。

「+1D」 年月日を1日進めます。

「Now」 年月日と時刻を現在の年月日と時刻にします。

「+12H」 時刻を12時間進めます。

「+1H」 時刻を 1 時間進めます。
「+30m」 時刻を 30 分進めます。
「+5m」 時刻を 5 分進めます。
「Load」 前回設定した年月日と時刻にします。
「M->0」 分の下 1 桁を 0 にします。(例 12 分-->10 分)

●「終了方法」欄では終了する方法を設定します。

終了方法で「休止状態」「スタンバイ」を選んだときは、「復帰時刻」が設定できるようになります。

●「復帰時刻」欄では、「休止状態」や「スタンバイ」状態から復帰する年月日や時刻を設定します。

「+1M」 年月日を 1 ヶ月進めます。
「+1W」 年月日を 1 週間進めます。
「+1D」 年月日を 1 日進めます。
「Now」 年月日と時刻を現在の年月日と時刻にします。
「+12H」 時刻を 12 時間進めます。
「+1H」 時刻を 1 時間進めます。
「+30m」 時刻を 30 分進めます。
「+5m」 時刻を 5 分進めます。
「Load」 前回設定した年月日と時刻にします。
「M->0」 分の下 1 桁を 0 にします。(例 12 分-->10 分)

●「繰り返し」欄では、毎日、毎週、毎月繰り返して動作する場合にチェックします。

・「毎日」 時刻だけが設定できます。「終了方法」が「休止状態」と「スタンバイ」の場合には、復帰する時刻を設定することもできます。

・「毎週」 曜日と時刻が設定できます。「終了方法」が「休止状態」と「スタンバイ」の場合には、復帰する曜日と時刻を設定することもできます。

・「毎月」 日にちと時刻が設定できます。「終了方法」が「休止状態」と「スタンバイ」の場合には、復帰する日にち時刻を設定することもできます。日にちは「1」から「28」の間で選ぶことができます。

●「設定」ボタン

「設定」ボタンをクリックすると設定が保存され、その設定で ShutDownExService が稼動し始めます。

■「サービス管理」ダイアログボックス

「サービス管理」ダイアログボックスでは、ShutDownExService の稼動状況を確認、設定することができます。



●信号機

サービスが稼動している場合は「青色」、停止している場合は「赤色」、一時停止している場合には「黄色」が点灯しています。

●「開始」ボタン

サービスを開始します。

●「停止」ボタン

サービスを停止します。

●「一時停止」ボタン

サービスを一時停止します。

●「再開」ボタン

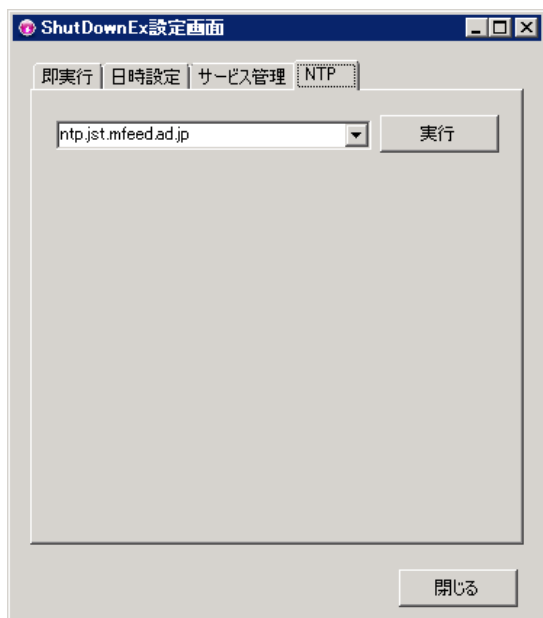
一時停止しているサービスを再開します。

●「再起動」ボタン

開始しているサービスをいったん停止してから開始します。

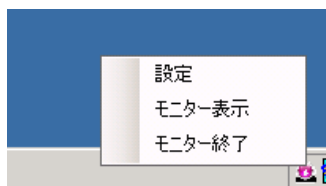
■「NTP」ダイアログボックス

NTP サーバと同期を取り、サーバの時計を正しいものにします。NTP サーバを選んでから「実行」ボタンをクリックしてください。

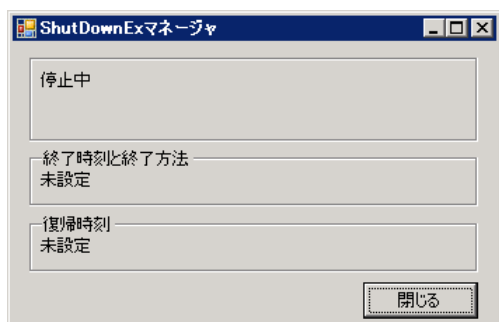


■ ShutDownExManager

スタートメニューから「ShutDownEx」を選ぶと「ShutDownEx 設定画面」が起動すると同時にタスクトレイに「ShutDownExManager」が表示されます。「ShutDownExManager」は「ShutDownExService」をモニターします。アイコンの上で右クリックするとメニューが表示されます。



メニューから「設定」をクリックすると「ShutDownEx 設定画面」が表示されます。
メニューから「モニター表示」をクリックするとモニター画面が表示されます。

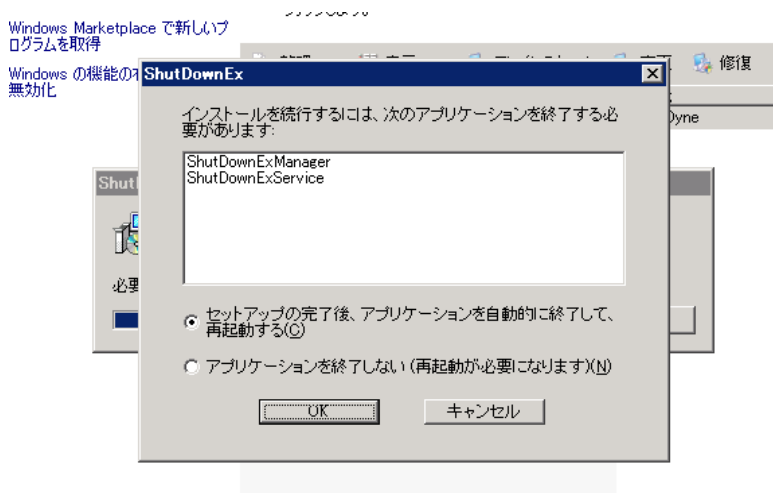


メニューから「モニター終了」をクリックすると、モニター画面が表示されていれば閉じられ、タスクトレイから「ShutDownExManager」も消去します。

■ アンインストール

コントロールパネルの「プログラムと機能」(Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008 の場合)からアンインストールしてください。

Windows Server 2008 でアンインストールするとき、ShutDownExService が稼動していたり、ShutDownExManager が起動している状態だと以下の警告が表示されます。



「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」がチェックされた状態で「OK」ボタンをクリックしてください。ShutDownExService は自動的に終了してから削除され、ShutDownExManager も終了してからアンインストールされます。サーバなどの再起動は必要ありません。

ShutDownEx 設定画面から ShutDownExService をあらかじめ停止（「コントロールパネル」－「管理ツール」－「サービス」から停止してもかまいません）しておき、ShutDownExManager のメニューから「モニター終了」を選んであらかじめ ShutDownExManager を終了しておけば、警告は表示されません。

■その他

●サーバで実行する場合は

サーバで実行する場合には、あらかじめじゅうぶんなテストを行なってください。

本ソフトウェアの利用に関して不具合などが発生しても補償はできません。

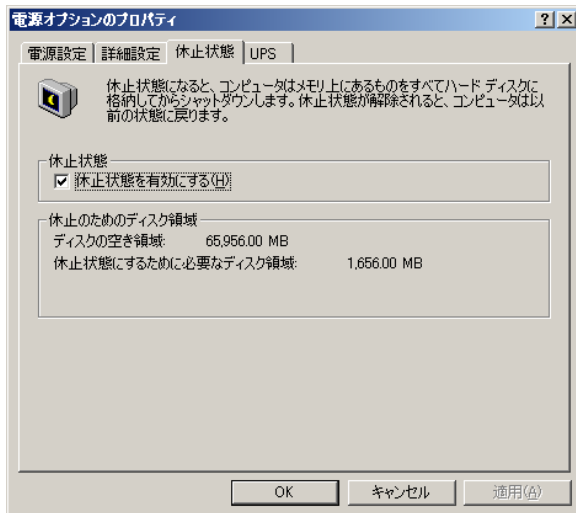
●異常が発生した場合には

Windows をセーフティモードで起動してから、「コントロールパネル」－「管理ツール」の「サービス」で「ShutDownExService」の「スタートアップの種類」を「自動」から「無効」に変更してから再起動してください。ShutDownExService が Windows 起動時に開始しないようになります。

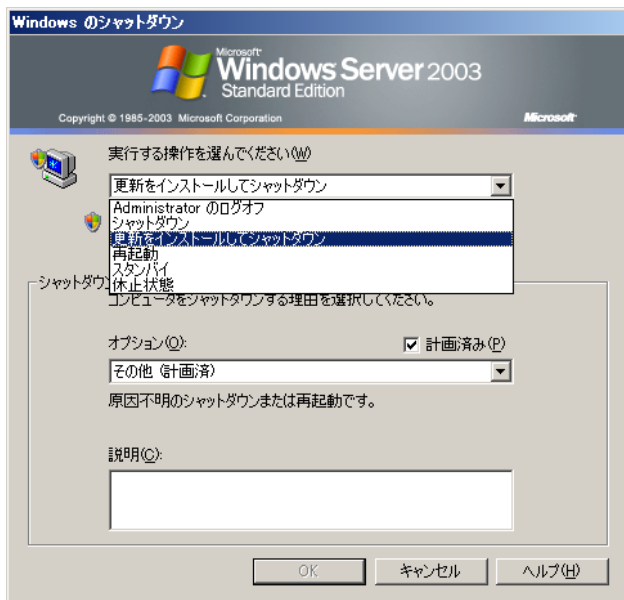
●サーバでの休止状態について

Windows Small Business Server 2003 では、Microsoft Exchange Server 2003 が休止状態をサポートしない関係から、休止状態・スタンバイ状態にすることはできません。

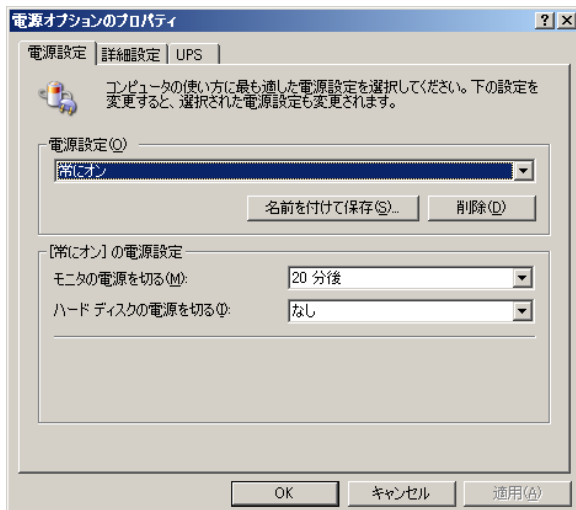
サーバを休止状態にできるかどうかは、「コントロールパネル」－「電源オプション」に「休止状態」タブがあるかどうかでわかります。「休止状態を有効にする」をチェックするとサーバを休止状態にすることができます。



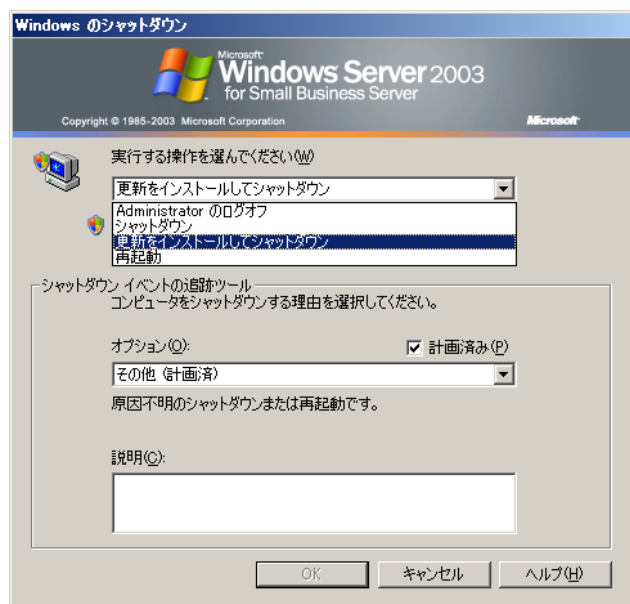
休止状態にすることができると、シャットダウンダイアログボックスの「実行する操作」に「休止状態」や「スタンバイ」が表示されます。



「休止状態」タブがないサーバでは休止状態にすることができません。



シャットダウンダイアログボックスの「実行する操作」にも「休止状態」や「スタンバイ」が表示されません。



●スリープとタイマー

ShutDownEx では、Windows サービスのほかタイマー機能を利用しています。そのためスリープ状態のときに Windows を再起動するとタイマーがリセットされてしまいます。Windows の再起動が予想されるようなケースでは、ShutDownTask をお試しください。

ShutDownTask

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/util/se493515.html>